

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成26年度採択分）
「毒性学の発展に寄与する迅速かつ有用な国際情報発信への取組」
（課題番号：262002）

学術団体名：一般社団法人 日本毒性学会
学術刊行物の名称：The Journal of Toxicological Sciences
事業期間：平成26年度～平成30年度

1 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

The Journal of Toxicological Sciences (JTS) への年間投稿論文数は2005年には36編（海外8編）であったが、編集委員会の努力によって2010年には142編（海外50編）となり2012年には256編（海外159編）にまで増加した。この様にJTSは発展の一途を辿っているが、“投稿から掲載（冊子体）までに要する期間”は現在平均で124日を要している。そこで、この期間の大幅な短縮、さらにインパクトファクターの向上を目指す。一方、毒性学研究は世界的にメカニズム解明を目指したものに变化しており、近年は化学物質等の毒性データの公表の場が非常に少ない。そこで「化学物質が示す毒性」等について検討した論文を掲載するオープンアクセスジャーナルをJTSの姉妹紙として創刊する。これらの取り組みによって、アジアからの国際情報発信力の強化を目指す。

・応募時に設定した取組の目標・評価指標

- (1) JTSの“採用から掲載までの期間”を大幅に短縮する。
- (2) JTSのインパクトファクター向上のための方策を講じる（最終目標2.00以上）。
- (3) 新しいオープンアクセスジャーナルを創刊する。
- (4) 学術論文の公開データベースであるJ-STAGEへの新ジャーナル収録を申請する。
- (5) 新ジャーナルをアジアを拠点とした国際的な毒性情報発信源とするため、英語を中心として日本語、韓国語および中国語も利用できる論文審査システムを構築する。
- (6) 新ジャーナルの“投稿から掲載までの期間”を平均30日以下にする。
- (7) 国際学会にブースを出展するなどして新ジャーナル創刊を周知する共に同誌およびJTSへの論文投稿を呼びかける。

2 目標の達成状況

・現在までの目標の達成状況

JTSは、平均69日かかっていた“採用から掲載までの期間”を55日まで短縮（約15日の短縮）することができた。最終的には平均20日を目標として、月刊化などの方策を練る。JTSのインパクトファクター向上策も種々考え実施中であるが、その成果が現れるのは数年先になると思われる。

新ジャーナルは名称をFundamental Toxicological Sciences (FTS)として平成26年に創刊した。J-STAGEへの申請も承認され、既に収録済みである。論文投稿・査読・編集システムも独自に構築し、査読システムは英語の他に日本語、韓国語も利用できる画期的なものとなった（中国語も準備は終了している）。FTSの現在の平均審査期間は6.8日、投稿から掲載までの平均期間は23.9日であり、目標を大きく下回る驚異的とも言える迅速性を実現することができた。さらに、毒性学関連では世界最大の学会である米国毒性学会にブースを出展し、FTSおよびJTSへの投稿を呼びかけた。

・今後の計画

JTSの“採用から掲載までの期間”を平均20日にするために、現在の隔月発行から毎月発行への移行を目指す。また、JTSのインパクトファクター向上のための取り組みを継続し、目標である2.00以上を実現させるための方策強化に努める。FTSに関しては、インパクトファクターの獲得を目指す。



FTSのホームページ